

数学・文系 — 岡山大学 2026 年入試問題分析 — **岡山進研学院**

全体講評： 例年文理共通問題は理系寄りの問題が多く、文系には難易度高めであったが、今年は文系に寄せた感がある。大問1, 2ともに標準的な問題だったのでしっかりと解いておきたい。(2を難しく錯覚しないように) 3の漸化式も標準的ではあるが(3)の計算は中々大変。4は数Ⅱの多分野の融合問題であるが、それに加えて幾何的な考えも利用出来る良問である。		試験時間 120分		
		難易変化 易化/やや易化/例年並/やや難化/難化		
		分量変化 減少/やや減少/例年並/やや増加/増加		
大問	区分	内容	講評	レベル
問1	数C	平面ベクトル	理系 問1を参照	★
問2	数A	確率 (点の移動)	理系 問2を参照	★
問3	数B	数列・漸化式 (階差数列, 数列の和)	(1), (2)は隣接3項型漸化式で階差数列への誘導がついた。(3)は(等比数列)×(等差数列)の和の問題で今年の共通テストでも扱われた。	★★
問4	数Ⅱ	図形と方程式 微分法(接線) 積分法(面積)	図形の幾何的な性質をうまく活用出来るかや微分係数の活用、更に積分を使った面積と数Ⅱの多分野にわたる総合力が問われる良問であった。	★★
学習指針： 大問は4問ともに良問で教科書の基本を習熟しているかやチャートやフォーカスの重要例題に分類されるような問題をしっかりと演習出来ているかが問われる。極端な難問を学習する必要はないが、注意すべき点として理系との共通問題で難易度を理系に寄せた問題である。今年こそ出題されなかったがいざというときに慌てないよう、基本が十分に身に付いてきたと感じたら難易度の高い問題にも積極的に挑戦しておきたい。		※ 難易変化、並びに分量変化は対例年比となっています。 ※ レベル表示は次の区分になります。 難 → ★★★ やや難 → ★★ 標準 → ★ やや易 → (無表示) 易 → (無表示)		